

海外交流研修

ニュージーランド 平成三十年六月三日〜七日

五和保育園 山口 学世

大宮勇雄先生の「学びの物語」に感銘を受け、一度ティ・ファリキに基づく保育現場を見てみたいと思っていた私にとって、今回のニュージーランドの視察研修は本当にありがたいものでした。それに先立ち、日本保育学会で「学びの物語ーニュージーランドの実践が提起していることー」と題してのマーガレット・カー先生のお話も聴け、期待感いっぱいの旅立ちでした。

六月四日、アオテアロ（白くたなびく雲）・ニュージーランドは、灰色の雲に覆われていました。雨もありましたが、ほとんど傘もささずに視察を終えることができました。



ニュージーランドでは、未就園児を預ける場所が様々なようですが、その中でマオリの文化を大切に行っている OHANGA TONGA OPEN OTTEK

OHANGA REOとオークランド市内の VISIT LEARNING CURVES CHILD CARE CENTRE と BEACH HAVEN PRIMARY の二施設を見学しました。三施設とも園児四十人前後の家庭的な施設で、豊かな環境のもと、子どもたちが伸び伸びと自由に遊びを選択している姿を見させていただきました。

各施設、必ずあるのはポートフォリオ（学びの物語）。この園では、左側に、子どもの



姿を、右側に保育士としての学びの物語を記載しているようでした。「これを、どう活かすのですか」の私の問いに『気づく・認める・応答する・記録する・読み返す・振り返るを繰り返す、次の学びをアップさせます』とマーガレット・カー先生が講演で話した内容を、スラスラと一保育士が答えたのです。小学校入学時には、自分のポートフォリオを自分で選び、自分はこんな学びの物語を歩んできたことを話していくそうです。また、保護者も、自分の子どもの家庭での学びの姿を書き、ポートフォリオを足していくそうです。





就学前施設・小学校・家庭と、大人の子どもへの眼差しが、ポートフォリオというものを通して、繋がっている事が素晴らしいと思えました。

保護者用に、ニュージーランド教育省から三つ折りのパンフレットが発行されており、園の入り口に置いてありました。そこには「すべての幼児教育は、幼児が自信をもって、能力のある学習者になる為」にあると始まり、ティ・ファリキの四つの基本原則と五つの学びの成果等について、ちゃんと説明され、同じ内容が掲示がされている事にも驚きました。

また、誕生日で随時入園。小学校入学も誕生日で入学していく。また、週二十時間、一日六時間までが、国の無償時間等、育児と女性の労働の両方を守るお国柄を感じました。

一番心に残っているのは、「あなたにとつてティ・ファリキとは何ですか」の質問に『常に頭の中に入れておくものです』『ティ・ファリキには、年齢に応じたかみ砕いたカリキュラムのようなものはないのですか』に対して『オー！オールドオールドタイム。その考え方に、私たちは膨大な無駄な時間を過ごしてきました』『この考え方を浸透させるために、保育士が協力しました。まず、親に語り



かけ、子どもの見方を変えていったのです』と力強く答える保育士に、ティ・ファリキに対する信頼と自信を感じました。

新指針が公示され、みんなで新たな時代を生きる子ども達の保育がスタートしている日本です。二十年后に、同じようなことを、自分を含め私たち日本の保育士みんなが言えるのか、分厚い保育指針解説書を見ながら考えてしまいました。

最後になりましたが、企画して下さいました海外交流委員の先生方や楽しく同行して下さいました県内の保育士さん達に心から感謝申し上げます。

